

※堅志学とは三原高校における「総合的な探究の時間」の呼称です。

## 三原高生が三原市のPR動画を作成するシティプロモーション事業に参加しています。現在、生徒たちによる撮影が進行中です。

三原高校では総合的な探究の時間（堅志学）の中で、プロジェクト学習を行っています。2年生12名は「みはら2030プロジェクト」として、地元三原市の魅力発見や活性化に向けた研究を進めています。現在は三原市が進める「シティプロモーション事業」と連携して、三原テレビなど地元企業などと協力しながらPR動画の作成に取り組んでいます。

生徒の活動が取り上げられました。

iPadでPR動画を撮影しています。



三原市HPに本校生徒の活動を紹介する動画が公開されています。是非ご覧ください。

高校生が三原をPRする映像の制作に取り組んでいます。

三原市ホームページ ([広報戦略課](#)・[三原市ホームページ](#))

三原市宮沖の三原高の生徒が、まちの魅力を若者の視点でPRする動画を制作している。景勝地や祭りの紹介に偏りがちな大人目線と一線を画す作品を期待し、市が依頼した。3月上旬ごろ、市公式フェイスブックなどで公開する。

総合学習の一環で、2年生12人が地元ケーブルテレビ社員たちの助言を受けながら取り組む。転校生の三原での発見、高校生になりきった市のゆるキャラ「やっさだるマン」の学校生活などのストーリーを生徒が考案。自

### 三原高生の視点 まち動画

自ら出演・撮影 魅力発信



やっさだるマン（中央）を交えたPR映像を撮影する生徒

ら出演・撮影し、約1分の動画に編集する。

動画公開を予告する約15秒のPR映像の撮影も、校内などで進めている。平元諒真さん(16)は「全国の同世代に受ける動画を作り、まずは『三原』の名前を知ってほしい」と意気込む。

市が昨年秋開いた情報発信の在り方を巡る座談会で、同校教諭が「生徒もまちのために何かしたいと考えている」と提起したのがきっかけ。市広報戦略課は「高校生の元気な姿を発信できることが、市の強みにもなり得る」と期待している。  
(馬場洋太)

中国新聞  
令和3年1月21日

三原市のゆるキャラ「やっさだるマン」が三原高校に登場しました。iPadを使って撮影をしています。企画も出演も撮影も生徒たちが行っています。三原市や撮影指導をしてもらっている三原テレビなど関係者の方々にも生徒のアイデアや発想による動画の完成を楽しみしてもらっています。